

愛知県美術館友の会では、会員向けの講演会や講座も開催しています。その内容は当館の展覧会やコレクション関連に限らず、「ルネッサンス」「ヴァトー、シャルダン」「ガンダーラとパーミヤン」「仏像の光背」「浮世絵」「人間国宝の陶芸」など、会員の希望による幅広いテーマが取り上げられています。

去る7月24日（土）には、「現代の表現—社会の中での試み」と題した講座が催されました。講師は豊田市美術館チーフキュレーターで美術批評家の天野一夫さん。



▲大きな部屋での講演会とはまた違った和やかさと熱気が。

天野さんのお話は、現代美術を（自分なりに）読み解くことを愉しもう、あいちトリエンナーレでいつもの美術館・いつもの街が異なったものになることを現場で感じよう！ というもの。

現代美術と社会の関係の例として、クリスト（大きな建物や自然の景観などを布で包む作品で有名）の制作記録が紹介されました。作品の壮大さをあらためて感じるとともに、地元住民たちの賛否両論熱い語り口に、ご聴講の皆さんから笑いがこぼれました。



▲万里の長城のような、クリストの布フェンス。

友の会へのご入会は、トリエンナーレ開催中も美術館入口で受け付けています。

(T . M .)